

研 究

当院小児科におけるインフルエンザワクチン及び インフルエンザと解熱薬に関する意識調査

浜松赤十字病院 薬剤部

牧田道明, 太田裕子, 渥美美乃, 氏原よし江, 小林美絵, 二橋智郎,
大間吏恵, 伊藤緑, 青山平, 竹内正幸, 松原貴承, 金原公一

要 旨

昨シーズン, 当院小児科でインフルエンザワクチンを接種した全小児を対象に, インフルエンザワクチン接種後の感想と, インフルエンザと解熱薬の関係の理解度を知るためにアンケート調査を行った. 接種後の感想に対しては小児ごと, 理解度に対しては家族ごとの回答とした. それぞれ129名中85名, 94家族中60家族より回答を得た.

- 1) 今回のワクチン接種で副反応があったが8%であった.
- 2) インフルエンザに罹患したが15%であった.
- 3) 今回のワクチン接種が[有効と思った]が87%, [大変満足した]と[満足した]を合わせて85%であった.
- 4) インフルエンザと解熱薬の関係について正しく理解している家族は30%強であった.
インフルエンザやインフルエンザワクチンに対してまだまだ理解不足であり, 積極的な啓蒙が必要である.

Key words

インフルエンザ, インフルエンザワクチン, 解熱薬, アンケート調査, 小児

I. はじめに

わが国においてインフルエンザワクチンの接種は昭和62年学童期の接種が希望者のみとなり, 平成6年集団接種から任意接種となったため接種者は激減した. しかし, 小児ではインフルエンザに罹患した場合, 脳炎・脳症^{1) 2) 3)}などの合併症が問題となるので, 流行前にインフルエンザワクチンを接種することが最も重要と考えられる. 一方, 近年インフルエンザ脳炎・脳症の重症化と解熱薬の関係^{4) 5) 6)}が指摘されている. 今回我々は, 当院小児科でインフルエンザワクチンの接種を行なった小児に対し, ワクチン接種に対する有効性と満足度, 次回のワクチン接種の希望, ワクチンへの要望, またインフルエンザと解熱薬の関係の理解度を知るためにアンケート調査を行なった.

II. 対象及び方法

対象: 一昨年(平成14年)10月から昨年(平成15年)3月までに, 住所不明確な2名を除く, 当院小児科でインフルエンザワクチンを接種した全小児129名94家族を対象とした.

方法: アンケート用紙を封筒に入れ, 昨年4月上旬にアンケート用紙を郵送し, 返送してもらう方法で回収した. 回答に対して何の不利益も被らないことを明記した. 住所不明等で返送されたアンケートは1件もなかった.

アンケートの内容は表1のとおりである. 質問1~12は小児ごと, 質問13~20は家族ごとの回答とした.

インフルエンザワクチン: 今回使用したインフルエンザワクチンはインフルエンザHAワクチン「北研」である.

表1 アンケート内容

当てはまる記号に○印を、または[]に数字またはコメントのご記入をお願い致します。

- (質問1~12まではお子様一人ひとりに回答を、質問13~20はご家庭で一回答)
- I. 今回のインフルエンザワクチン接種に関して
- 質問1 1回目を受けられた時、お子様の年齢は? [歳] [月]
- 質問2 お子様の性別は? a 男性 b 女性
- 質問3 13歳以下のお子様のインフルエンザワクチンは2回接種が勧められています。
今回、接種回数は何回でしたか?
a 2回接種 b 1回だけ接種
- 質問4 インフルエンザワクチンを受けられた月は 1回目 [月]
2回目 [月]
- 質問5 1回だけ接種された方は、なぜですか?
a 忘れていた b 健康状態が悪かった
c その他 []
- 質問6 インフルエンザワクチンを接種された一番のきっかけは
a 前回は接種したから
b テレビ、新聞などの情報から
c 友人や知人に勧められて
d 学校の先生に勧められて
e 家族で相談して
f 病院で勧められて
g その他 []
- 質問7 今回のインフルエンザワクチン接種の副反応についてお尋ねします。
a 副反応はなかった。
b 副反応があった。
(1) 1回接種した後
(2) 2回接種した後
1. 接種した部位が赤くなった、腫れた。
2. 接種した後に蕁麻疹ができた。
3. 接種後数日間に渡って全身倦怠感があった。
4. その他 []
- 質問8 接種後から現在までの健康状態についてお聞きします。
a インフルエンザに罹った。[何日位で良く成りましたか] 日]
b 全く健康でインフルエンザに罹らなかった。
c 軽い風邪に罹った。 [何日位で良く成りましたか] 日]
- 質問9 インフルエンザに罹った方にお尋ねします。
a 医師の診察は受けなかったが、症状からインフルエンザと考えた。
b 近くの医院で診断された。
c 当病院で診断された。
d 入院した。

- 質問10 今回のインフルエンザワクチンの有効性について、ご意見をお教え下さい。
a 有効と思った。
b 有効性が少ないと思った。 [理由:]
c どちらとも言えない。 [理由:]
- 質問11 今回のインフルエンザワクチンに対する満足度をお尋ねします。
a 大変満足した。
b 満足した。
c どちらとも言えない。 [理由:]
d 不満足であった。 [理由:]
- 質問12 次回もインフルエンザワクチンの接種を希望されますか。
a する b しない [理由:]
- 質問13 今後のインフルエンザワクチンに望むことは(複数回答も可能)
a さらに副反応の少ないワクチン
b さらに有効性の高いワクチン
c 接種料金の公費負担
d その他 []
- II. インフルエンザと解熱剤に関して
- 質問14 処方されたかぜ薬や解熱剤が残ったらどうされますか?
a 取って置く b 捨てる
- 質問15 市販の風邪薬や解熱剤を買うことがありますか?
a よく買う b 時々買う c 買わない
- 質問16 インフルエンザは、かぜ症候群と比べて肺炎などの合併症を起こし易く、
脳炎を起こし死亡する例もあることをご存知ですか?
a 知っている b 知らない
- 質問17 インフルエンザの発熱に対して、メフェナム酸(商品名ボンタールなど)
やジクロフェナク(商品名ボルタレンなど)を使用すると脳炎を重症化する
恐れがあることをご存知でしたか?
a 知っている b 知らない
- 質問18 インフルエンザの発熱に対して、アスピリンを使用すると脳炎を起こす
恐れがあることをご存知でしたか?
a 知っている b 知らない
- 質問19 インフルエンザの発熱に対して、アセトアミノフェン(商品名ピリナジ
ン、アンヒバ、カロナール)は、比較的安全に使用できるのをご存知で
すか?
a 知っている b 知らない
- 質問20 インフルエンザワクチン及びインフルエンザに関して他にどんなことが
お知りになりたいですか。
[]

Ⅲ. 結 果

1. アンケートの回収率

回収されたアンケートは小児としては129名中85名で、回収率は66%であった。家族としては94家族中60家族で、回収率は64%であった。ただし、質問4と質問7~12と質問19に対して無回答が各1名づつあった。回収されたアンケートの性別は男児が39名で女児が46名、年齢は3歳をピークに最高年齢は14歳であった(図1)。

2. インフルエンザワクチンの接種回数

回答があった85名のうち2回接種を受けたと答

えたのは80名(94%)、1回のみと答えたのは5名(6%)であった(図2)。1回しか接種しなかった理由としては、[健康状態が悪かった]が1名、[1回目接種で副反応が出た]が2名、[13歳以上だった]が1名、[忘れていた]が1名であった。1回目の接種を受けた月は、10月が5名(6%)、11月が最高で55名(65%)、12月が20名(24%)、1月が4名(5%)であった。また、2回目の接種を受けた月は10月が1名(1%)、11月が11名(14%)、12月が最高で49名(61%)、1月が19名(24%)であった(図2、3)。

3. インフルエンザワクチン接種のきっかけ(複数回答可)

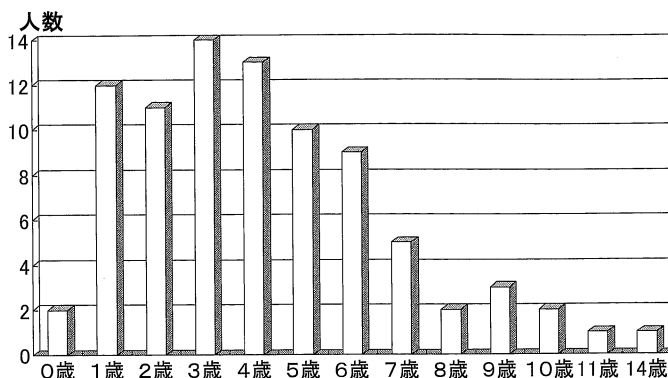


図1 接種者の年齢

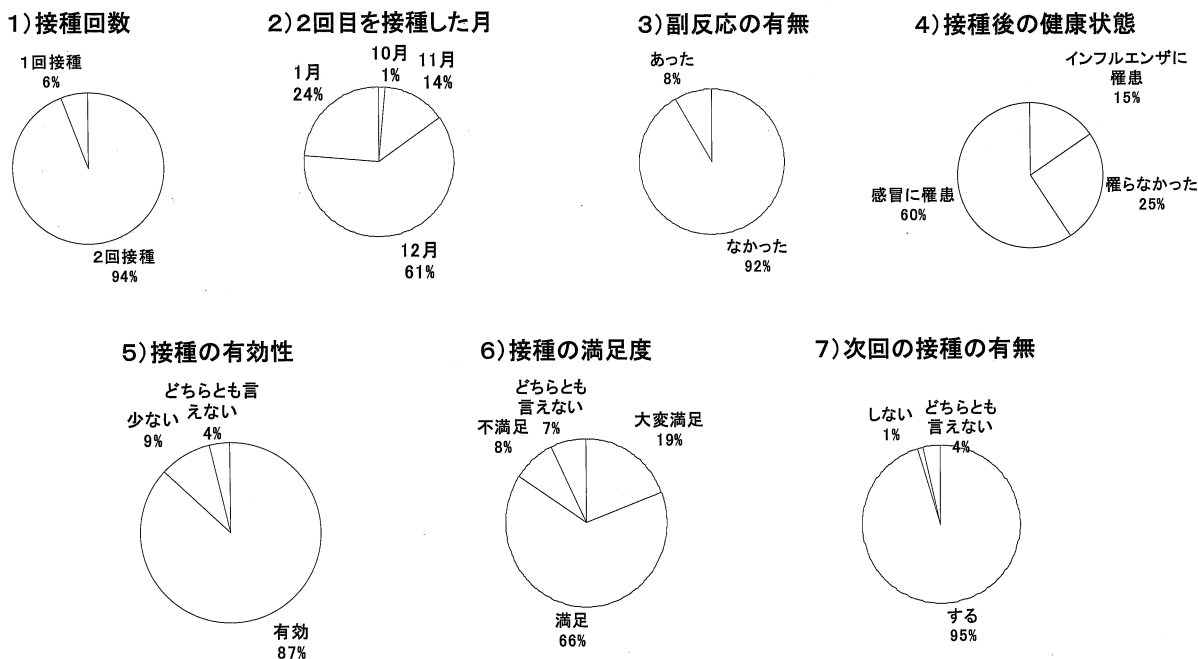


図2 アンケート結果 1

ワクチン接種のきっかけは、[前回も接種したから]が最高で37名、[テレビ、新聞などの情報から]が7名、[学校の先生に勧められて]が1名、[家族で相談して]が23名、[病院で勧められて]が7名、[その他]が13名、[友人や知人に勧められて]はいなかった。[その他]の理由として、解熱薬や抗生剤などの薬剤アレルギーがあるから、重い症状が出るのが心配だから、喘息があり2歳のときインフルエンザに罹って大変だったから、受験のため親の判断による、前回ワクチン接種を止めてしまったらインフルエンザに罹った

から、体調が悪い弟や妹にインフルエンザを持ち込ませたくないから、インフルエンザから子供を守りたいからなどのコメントがあった。

4. インフルエンザワクチン接種での副反応

84名から回答を得た。副反応が[なかった]が77名(92%)、[あった]が7名(8%)であった(図2)。副反応があった時期については、[1回目接種であった]が2名、[2回目接種であった]が3名、[両方あった]が1名、記載がなかった小児が1名であった。副反応の症状は[発熱と嘔吐]が1名、[接種後全身倦怠感があり入浴など

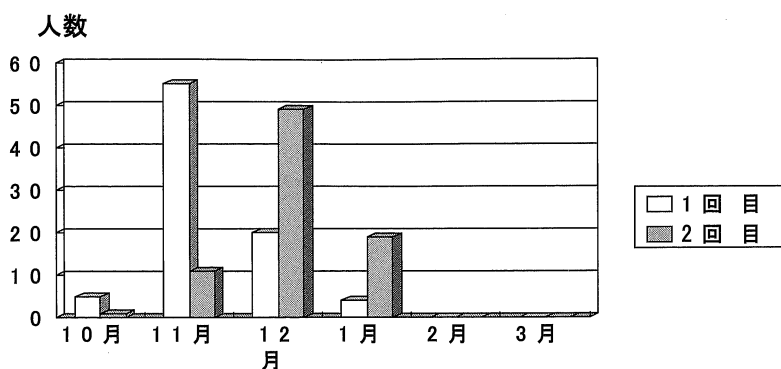


図3 接種した月

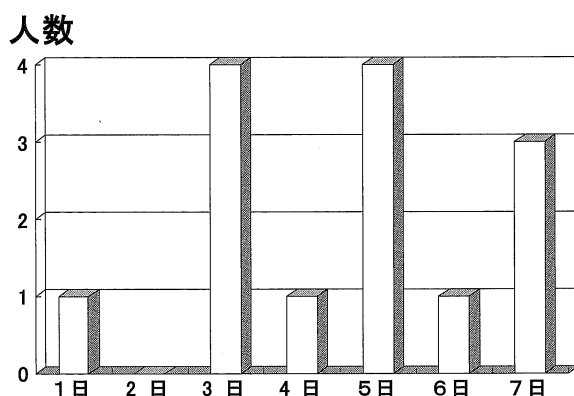


図4 インフルエンザの罹患期間

で体が温まると蕁麻疹が出た]が1名, [接種した部分が赤くなった, 腫れた]が5名であった。

5. インフルエンザワクチン接種後の健康状態

インフルエンザに [罹った] が13名 (15%), [罹らなかった] が21名 (25%), [軽い風邪に罹った] が50名 (60%) であった (図2). インフルエンザに罹ったと回答した13名中 [医師の診察を受けなかったが, 症状から考えた] が1名, [近くの医院で診断された] が1名, [当病院で診断された] が11名だった. インフルエンザに罹患しても入院した患児はいなかった. また, インフルエンザに2回罹患し, 罹患期間がそれぞれ1日と3日と回答した患児がいたため, 罹患期間は3日と5日が最高で各4名づつ, 1日と4日と6日が各1名づつ, 7日が3名であった (図4).

6. 今回のインフルエンザワクチン接種の有効性

ワクチン接種の有効性について, [有効と思った] が73名 (87%), [有効性が少ないと思った]

が8名 (9%), [どちらとも言えない] が3名 (4%) であった (図2). [有効性が少ない] と [どちらとも言えない] 理由として, A型には有効だったがB型には有効でなかった, インフルエンザに罹った, 風邪を引いたから, 接種しなかった家族もインフルエンザに罹らなかった, 熱が40℃以上まで出たなどのコメントがあった。

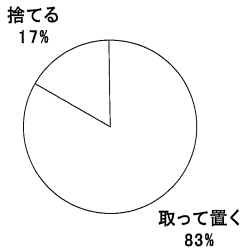
7. 今回のインフルエンザワクチン接種の満足度

今回のワクチン接種に [大変満足した] が16名 (19%), [満足した] が55名 (66%), [不満足であった] が7名 (8%), [どちらとも言えない] が6名 (7%) であった (図2). [不満足] や [どちらとも言えない] の理由として, 予防接種したにもかかわらずインフルエンザに罹ってしまった, 風邪を引いてしまったなどのコメントがあった。

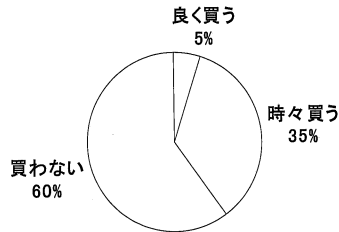
8. 次のインフルエンザワクチン接種の希望

次回接種を [希望する] が80名 (95%), [しな

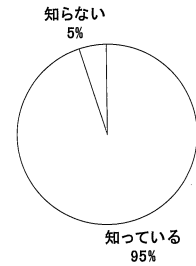
8) 残薬の処理



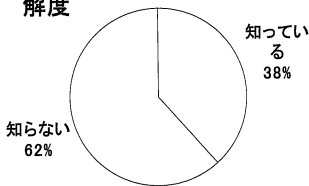
9) 市販薬購入の有無



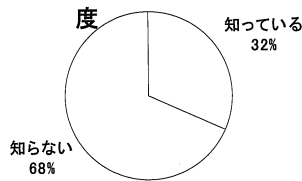
10) インフルエンザの合併症の理解度



11) インフルエンザとメフェナム酸・ジクロフェナクの関係の理解度



12) インフルエンザとアスピリンの関係の理解度



13) インフルエンザとアセトアミノフェンの関係の理解度

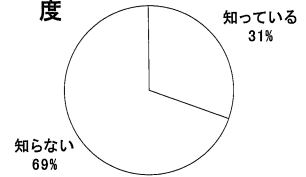


図5 アンケート結果 2

い]が1名(1%), [どちらとも言えない]が3名(4%)であった(図2)。[希望しない]理由としては、家族7人中1人だけしかワクチンを接種しなかったが、全員インフルエンザに罹らなかったのは家庭での対策が良かったのではないかがあった。[どちらともいえない]と答えた3名は全員来年の状況で判断するとコメントがあった。

9. インフルエンザワクチンに望むこと(複数回答可)

ワクチンに望むことは、[さらに副反応の少ないワクチン]が34名、[さらに有効性の高いワクチン]が40名、[接種料金の公費負担]が41名、[その他]が2名だった。[その他]には多くの型に効くワクチンの開発と安全性を求めます、集団予防接種の復活などのコメントがあった。

10. 残薬の処理また市販薬の購入

60家族から回答を得た。処方された薬を[取って置く]が50家族(83%)、[捨てる]が10家族(17%)であった(図5)。また、市販の風邪薬や解熱薬を[よく買う]が3家族(5%)、[時々買う]が21家族(35%)、[買わない]が36家族(60%)であった(図5)。

11. インフルエンザと脳炎・脳症および解熱薬に

ついての理解度

インフルエンザは、風邪症候群と比べて肺炎などの合併症を起こし易く、脳炎など起こし死亡する例もあることを[知っている]が57家族(95%)、[知らない]が3家族(5%)であった(図5)。インフルエンザの発熱に対しメフェナム酸やジクロフェナクを使用すると脳炎を重症化する恐れがあることを[知っている]が23家族(38%)、[知らない]が37家族(62%)であった(図5)。同様に、アスピリンを使用すると脳炎を起こすおそれがあることを[知っている]が19家族(32%)、[知らない]が41(68%)家族であった(図5)。一方、インフルエンザの発熱に対してアセトアミノフェンが比較的安全に使用できるのを知っているかの質問に対して59家族から回答を得た。[知っている]が18家族(31%)、[知らない]が41(69%)家族であった(図5)。

12. インフルエンザワクチン及びインフルエンザに対する質問

ワクチンには、接種の時期、今回接種したワクチンの型、副反応の種類や対応策、接種の回数、各医療機関による料金の差などの質問があった。インフルエンザには、感冒との違い、予防策、抗

インフルエンザ薬についてなどがあった。

IV. 考 察

今回、住所不明確な2名を除く、当院小児科でインフルエンザワクチンを接種した全小児に対し、アンケート調査を行った。129名94家族にアンケートを郵送し、85名(回収率66%)60家族(回収率64%)から回答を得た。

2回目接種を12月までに終えた小児は76%であった。我が国においてのインフルエンザの流行する時期とワクチンの効果の持続期間を考えると、2回目の接種を12月中旬までに終えておくのが効果的であるが、適切な時期に接種できるよう指導が必要である。

今回の調査で受験のため接種したとの回答は1名で、またワクチン接種のきっかけに「学校の先生から勧められて」と回答したのは1名であった。ワクチン接種の学校からの啓蒙も必要である。

アンケートの回答者の92%に副反応が認めなかった。副反応があったと回答したのは7名で、そのうち全身的な副反応があったのは2名、残りの5名は接種局所の腫脹であった。今回のインフルエンザワクチン接種での副反応はほとんど局所的なものであった。

今回インフルエンザに罹患したと答えたのは15%であった。そのうち、13名中12名は医療機関で診断されていた。罹患率もほぼ同数と思われる。当院の校区にある上島幼稚園の調査では、昨シーズン(平成14年10月～平成15年3月)にインフルエンザに罹患した園児は全園児170名中28名で罹患率16%であった。ワクチン接種によって罹患率は低下を示したとは言えない。しかし、ワクチンを接種した小児ではインフルエンザに罹患しても入院した患児はなく、またインフルエンザの罹患期間が5日以内の患児が69%と罹患しても重症化はしなかったと思われる。

今回のインフルエンザワクチンの有効性について、「有効性が少ない」と「どちらとも言えない」と答えたのは13%であった。また、満足度については、「どちらとも言えない」と「不満足であった」が15%であった。これらには、接種者や知人

がインフルエンザに罹患したから、感冒に罹ったからなどのコメントがあった。ワクチン接種でインフルエンザの罹患を完全に予防することはできないが重症化することが防げること、また感冒とインフルエンザは全く違うことが理解されていない。

次回も接種を「希望する」と答えたのは95%、今回インフルエンザに罹患した患児全員が次回も接種を希望していた。「どちらとも言えない」と答えた3名も来年の状況でとコメントしており、ワクチン接種の重要性は十分理解されていると思われる。

今回のアンケートで、41名が小児のインフルエンザの公費負担を希望している。地域によっては数年前から老人の公費負担が認められているが、今後小児のインフルエンザワクチンの公費負担も考慮する必要があると思われる。

インフルエンザに罹患すると肺炎などの合併症を起し易く、脳炎などで死亡することを知っていると答えた家族は95%であった。インフルエンザの合併症は十分理解されワクチン接種に繋がっていると思われる。

処方された解熱薬や感冒薬を「取って置く」と答えた家族は83%、市販薬を「よく買う」と「時々買う」と答えた家族は40%であった。一方、インフルエンザの解熱に対して、メフェナム酸やジクロフェナク、アスピリンを使用すると脳炎を起し、重症化する危険性があることを知っていると言った家族はそれぞれ38%、32%で、インフルエンザにアセトアミノフェンが比較的 safely 使用できることを知っていると言った家族は31%であった。インフルエンザの発熱に対し使用する解熱薬を正しく理解している家族は少ない。昨年、松下ら⁷⁾は、インフルエンザと解熱薬について同様の調査を行ったが、インフルエンザとメフェナム酸・ジクロフェナク、アスピリン、アセトアミノフェンの関係を知っているがそれぞれ12%、15%、13%であった。今回の調査では理解度が倍以上にはなっているが、まだまだ十分とは言えない。また、残薬の処理や市販薬の購入の割合を考えると、インフルエンザの発熱時に家庭の判断で誤った解熱薬を使用する可能性が考えられる。

小児がインフルエンザに罹患した場合、合併症が問題になる。脳炎・脳症になるときわめて短時間で症状が進展し、致死率は約3割に達すると言われてしている。今回ワクチン接種の重要性や合併症については高い理解度が得られたとは言え、まだまだ十分とは言えない。インフルエンザに罹患しないよう、また罹患しても重症化して合併症を起こさないよう、インフルエンザやワクチンの基本的なことから情報を提供し、啓蒙していく必要がある。

文 献

- 1) 森島恒雄. インフルエンザ脳炎・脳症. 治療学 2000; 34: 54-57.
- 2) 小林昌和, 小池通夫, 柳川敏彦ほか. 小児の脳炎・脳症など重症急性神経系疾患の疫学調査. 小児感染免疫 1999; 11: 341-345.
- 3) 岡野里香, 小野厚, 堂面政俊ほか. 神経合併症を呈したインフルエンザ感染症の4例. 小児科臨床 1998; 51: 919-925.
- 4) 松菌嘉裕, 穴倉勉彌, 富樫武弘ほか. インフルエンザ流行期にみられた脳炎・脳症の多発. 日本小児科学会雑誌 1996; 100: 1258-1259.
- 5) ライ症候群とサリチル酸系製剤の使用について. 厚生省医薬安全局編集. 医薬品等安全性情報 No151; 1998. p.2-7
- 6) インフルエンザ脳炎. 脳症患者に対するジクロフェナクナトリウム製剤の使用について. 厚生省医薬安全局編集. 医薬品, 医療用具等安全性情報 No163; 2000. p.6-8
- 7) 松下久美. 小児科外来における解熱剤の意識調査より: パンフレット発行に向けて. 第41回全国自治体病院学会抄録集; 2002年11月14-15日; 静岡. 全国自治体病院協議会; 2002. p.542.